富山県立中央病院
やさしさ・信頼・安心

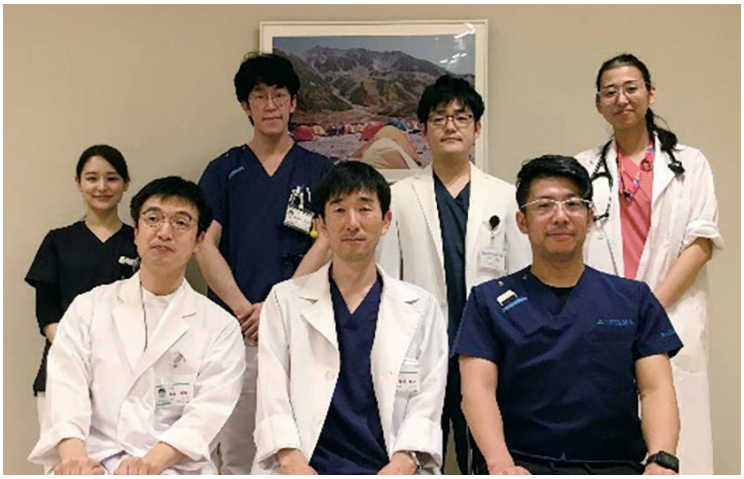
地域連携室だより

令和4年12月号
No.246

〒930-8550　富山市西長江2-2-78 | TEL　076 (424) 1531 | https://www.tch.pref.toyama.jp/

師走の候、皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
新型コロナウイルスの感染拡大防止にご協力いただき感謝致します。
今月の掲載は、腎臓・高血圧内科、脳神経外科、緩和ケアチームの紹介です。

診療科の紹介　腎臓・高血圧内科



外来受診表

	月	火	水	木	金
初診	篠﨑		牧石	舟本	
再診	牧石	篠﨑	舟本	牧石	篠﨑
再診		清水		海古井	

腎臓・高血圧内科　スタッフ
後列左から：藤永研修医、海古井医師、山森医師、清水医師
前列左から：舟本医長、篠﨑医長、牧石医長

◆ 診療体制

腎臓・高血圧内科は、令和4年度から篠﨑康之医長、舟本智章医長、牧石祥平医長、清水英子医師、海古井大智医師、山森文敬医師の合計6名で担当しています。担当は、右上の表のとおりです。

再診は午前･午後の予約制です。初診の患者さんは、地域連携室を通じてのご予約をお願いいたします。

◆診療内容の紹介

当診療科では、腎疾患（糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎臓病など）、高血圧、腎移植、膠原病（全身性エリテマトーデス、ANCA関連血管炎など）を中心に診断、治療を行っております。血液浄化療法科として血液透析、腹膜透析、血漿交換などのアフェレシス治療も担当しています。

◆最近の話題

慢性腎不全で維持透析を行っている患者さんは、約35万人おられます。そのうち、1万3千人の方が献腎移植を希望され、臓器提供の橋渡しをする組織である臓器移植ネットワークに登録しています（表1）。年間の献腎移植数は100件程度で、登録

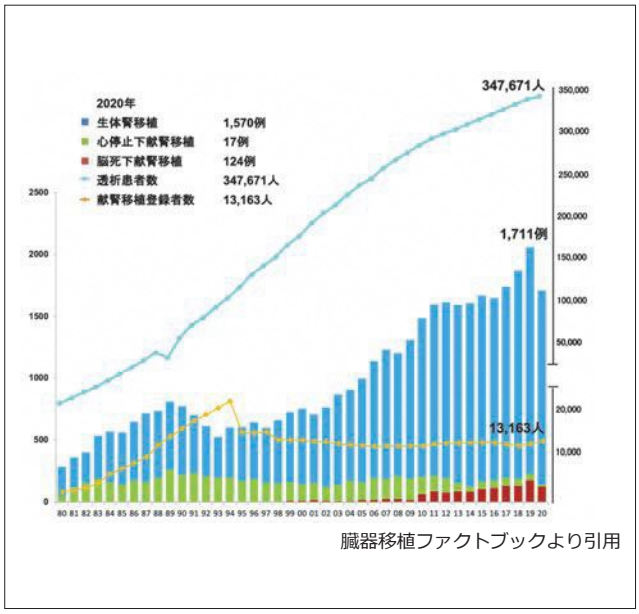


表1

後平均15年程度の待機時間を要します。諸外国と比較すると、日本は臓器提供者数が少なく、長期待機時間は大きな課題です（表2）。

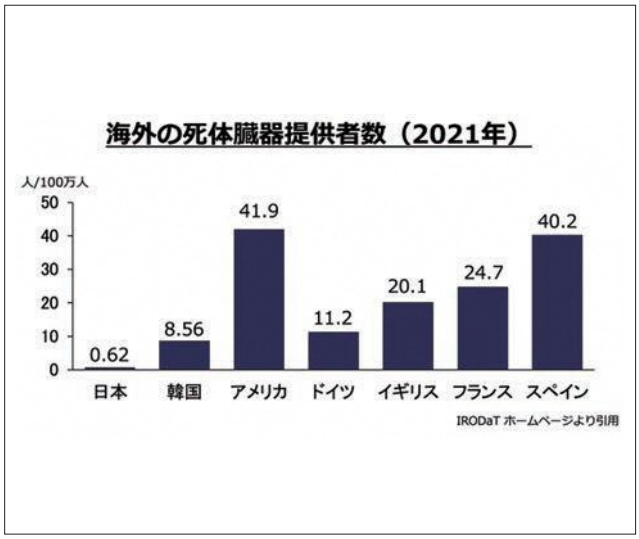
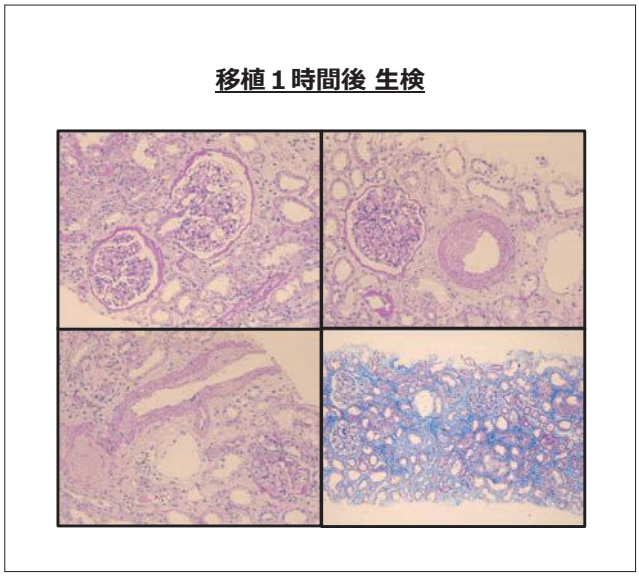


表2

移植前に十分な準備期間を設ける生体腎移植と異なり、献腎移植は緊急入院、手術となるため、日頃から適切な透析管理、動脈硬化などの合併症・併存疾患のコントロール、定期的ながんや歯科領域の検診を行なっていることが重要になります。当院で行なった献腎移植の1例を提示します。

症例は、慢性腎不全のため20歳代から血液透析を継続していた50歳代の方です。長期透析歴があるものの、血管の石灰化は軽度で、血液検査でも透析管理は良好、高血圧などの併存疾患も十分にコントロールされており、悪性腫瘍や感染症もありませんでした。当院泌尿器科で提供された腎臓は腸骨窩に移植し、術後4日目から1日1L以上の尿量が得られるようになりました。移植した腎臓の生検所見は、動脈硬化病変のみで持ち込みの腎病変は認めませんでした（図）。術後6日目を最後に、



図

脳神経外科のご案内

専門領域と治療内容の特徴

1963年11月、当院において杉山義昭先生が北陸地方で最初の脳神経外科として開設し、現在では日本脳神経外科学会専門研修プログラム連携施設に指定されています。インフォームド・コンセントに基づいた患者に優しい、負担の少ない診療を心掛け、脳腫瘍、脳血管障害、頭部外傷、機能的疾患（顔面けいれん、三叉神経痛）、小児奇形など広く脳神経疾患に対応しております。

新入院患者数は年間500人程度。入院患者の内訳では、脳血管障害（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血など）が300例程度、脳神経内科と合わせて500人程度となっております。手術件数は年間200～250件であり、その内訳は脳腫瘍関連50例、脳血管障害に対する外科的治療40例、脳血管内治療50例、外傷性疾患50例、その他（神経血管減圧術・小児奇形・脊髄疾患・水頭症に対するシャント術など）20例程度となっています。特に、脳血管内治療（頸動脈ステント留置術やコイル塞栓術など）は年々増加傾向であります。また、脳梗塞にたいしては、t-PAによる血栓溶解療法だけでなく、血栓回収療法を積極的に行っています。脳神経外科専門医4名に救命センターと兼任の水田亮佑先生、嘱託医として河野充夫先生を加え、総勢6名で入院・外来の全症例を検討し、ONE TEAMとして診療を行っております。

医師紹介

経験豊富なスタッフが万全な体制で治療をサポート

部長

青木（あおき）　洋（ひろし）

【皆さんへの一言】
・多職種間で連携をとり、チーム医療を行います。
【自身の専門性（手技他）アピール】
・脳腫瘍、三叉神経痛、顔面けいれん
【資格】
脳神経外科専門医、がん治療認定医

部長

佐野（さの）　正和（まさかず）

【皆さんへの一言】
・地域に根ざした診療を心がけます。
【自身の専門性（手技他）アピール】
・神経内視鏡手術
【資格】
脳神経外科専門医、神経内視鏡技術認定医

医長

齋藤　祥二（しょうじ）

【皆さんへの一言】
・丁寧な診療を心がけます。
【自身の専門性（手技他）アピール】
・脳血管障害
【資格】
脳神経外科専門医、脳血管内治療専門医、脳卒中専門医

副医長

河辺（かわべ）　啓太（けいた）

【皆さんへの一言】
・患者さんに寄り添う診療を心がけます。
【自身の専門性（手技他）アピール】
・脳血管障害
【資格】
脳神経外科専門医、脳血管内治療専門医

医師

水田（みずた）　亮佑（りょうすけ）

【皆さんへの一言】
・患者さんが安心できるような診療を心がけます。
【自身の専門性（手技他）アピール】
・脳神経救急

外来診療担当表

	月	火	水	木	金
初診	青木	担当医	佐野	河野	河野
再診	佐野／齊藤	-	青木／河辺	-	青木／水田
救急	河辺／水田	担当医	齊藤／水田	担当医	佐野／水田

透析を離脱することができました（表3）。

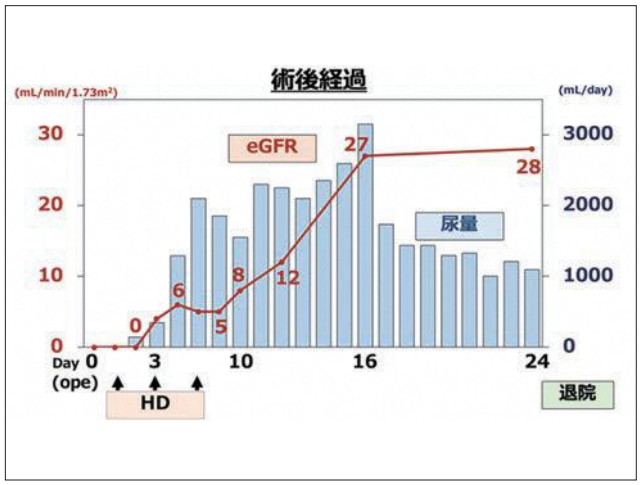
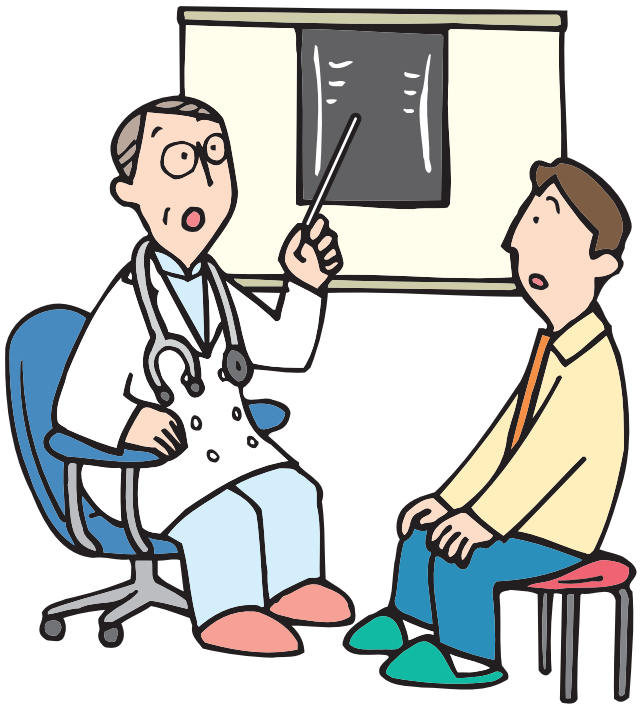


表３

一般に腎移植術後の数週間は、移植腎の尿細管機能が低下しているため多尿となることが多く、脱水を避けるため十分量の飲水が必要になります。移植前までは水分制限をしてきたため、戸惑われる患者さんも多いですが、徐々に新しい生活様式に適応されます。内服薬についても、維持透析中はリン吸着薬や降圧薬が主ですが、移植後は拒絶反応を抑えるための免疫抑制薬（メチルプレドニゾロン、タクロリムス、ミコフェノール酸モフェチルまたはエベロリムス）が中心になります。併存疾患に糖尿病がある場合、腎不全の状態では血糖値が安定して治療薬が不要となることがありますが、移植後は腎機能の回復や、メチルプレドニゾロン、タクロリムスの副作用により血糖値が上昇し、糖尿病治療を再開するケースがしばしばあります。



この患者さんも新しい生活や内服薬に慣れるまでやや時間を要しましたが、今では職場に復帰して透析のない日々を過ごされています。今回の献腎移植が良好な経過をたどった要因として、日頃から上手く透析管理をされ、長期の透析歴にも関わらず合併症・併存疾患が軽度であったことがあります。

当院では血液透析を開始した患者さんは、通いやすい地域の病院・クリニックへ紹介して維持血液透析の継続をお願いしています。透析患者さんは併存疾患が多く高齢化も進んでいるため、治療管理が難しい症例をご紹介することも稀ではありませんが、ほぼ全例を引き受けて適切な透析管理をいただいており、心より感謝申し上げます。当科の長所である急性期疾患の対応や、移植も含めた腎代替療法、腎生検による腎臓病の組織診断などを通じて、地域医療連携に貢献したいと考えております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

（文責：篠﨑康之）

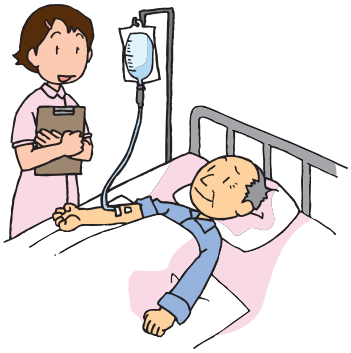
緩和ケアチームの紹介

緩和ケアチームとは、痛みなどの身体的苦痛や不安などの精神的苦痛を和らげ、患者・家族が“その人らしく”生活できるよう支援するチームです。疼痛やその他の身体症状の緩和に難渋するケースや、抗がん治療や症状進行などに対する不安や、気持ちのつらさがあり精神的サポートが必要な場合などに依頼があり、介入しています。今は緩和ケアの対象は「がん」だけではありません。心不全や神経難病による呼吸困難、閉塞性動脈硬化症や化膿性脊椎炎などによる難治性の痛みに対する症状緩和も行っています。

構成メンバーは、医師（緩和ケア科、腫瘍内科、外科、麻酔科、循環器内科、精神科）、看護師（緩和ケア認定看護師、がん性疼痛看護認定看護師、乳がん看護認定看護師）薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、医療ソーシャルワーカーです。週に1回カンファレンスを行い、チーム介入中の患者さんの症状緩和やケアについて検討しています。QOL（quality of life：生活の質）の向上を目標に、主治医や病棟スタッフと協働し、がんや治療に伴う身体的苦痛、精神・社会的な不安や悩みを和らげるための専門的な知識や技術を提供しています。

退院後は、緩和ケア外来で介入を継続しています。症状緩和を中心に在宅の医療･介護スタッフなどと連携し、安心して在宅療養が継続できるよう関わっています。

緩和ケアセンター横には「がん相談支援センター」“こもれび”が設置されています。院内だけでなく院外の方からの相談にも対応しています。相談内容は、治療や治療に伴う副作用、経済的なことなど様々です。仕事の継続に向けた支援や AYA 世代の患者・家族への支援も行っています。患者・家族が抱く不安や悩みを少しでも軽減し、療養生活に専念できる環境を整えることで、“その人らしく”、安心して日々の生活ができるよう取り組んでいます。



こもれび

緩和ケアチームのカンファレンス

お知らせ

1 連携談話会・症例検討会のご案内

★…医療機関スタッフの方々の公開学習の場としています。お気軽にご参加ください。

1月開催予定

★第163回　富山県立中央病院消化器キャンサーボード
日 時：令和5年1月5日（木）　17時から
場 所：富山県立中央病院　　5階ホール

富山県皮膚科病診連携症例検討会（二木会）
日 時：令和5年1月12日（木）　19時から
場 所：富山県立中央病院 中央病棟B 1階会議室

★中央病院病診連携談話会
日 時：令和5年1月16日（月）　19時から
場 所：富山県立中央病院　　5階ホール

胸部レントゲンカンファレンス
日 時：令和5年1月19日（木）　19時から
場 所：富山県立中央病院 中央病棟B 1階会議室

★糖尿病療養指導のための講習会
日 時：令和5年1月27日（金）　17時から
場 所：富山県立中央病院　　5階ホール
講義：「高齢者糖尿病の病態と留意点」
問題演習：「糖尿病注射製剤　Up Date」
療養指導の実際：
　「透析室での糖尿病の足病変とフットケア指導の実際」

呼吸器キャンサーボード
日 時：令和5年1月10、17、24、31日(火)　16時30分から
場 所：富山県立中央病院　　中央病棟B 1階会議室

2月開催予定

★第164回　富山県立中央病院消化器キャンサーボード
日 時：令和5年2月2日（木）　17時から
場 所：富山県立中央病院　　5階ホール

富山県皮膚科病診連携症例検討会（二木会）
日 時：令和5年2月9日（木）　19時から
場 所：富山県立中央病院 中央病棟B 1階会議室

★中央病院病診連携談話会
日 時：令和5年2月13日（月）　19時から
場 所：富山県立中央病院　　5階ホール

胸部レントゲンカンファレンス
日 時：令和5年2月16日（木）　19時から
場 所：富山県立中央病院 中央病棟B 1階会議室

★糖尿病療養指導のための講習会
日 時：令和5年2月24日（金）　17時から
場 所：富山県立中央病院　　5階ホール
講義：「糖尿病性神経障害の病態」
問題演習：「糖尿病と脂質管理に必要な知識」
療養指導の実際：「インスリンポンプ療法の指導の実際」

呼吸器キャンサーボード
日 時：令和5年2月7、14、21、28日（火）　16時30分から
場 所：富山県立中央病院　　中央病棟B 1階会議室

換気、手指消毒、ソーシャルディスタンス確保、環境整備を徹底して実施いたします。

2 1月の外来診療に関する医師不在日

科 名	医 師 名	不 在 日
循環器内科	臼田医師	24日(火)
小　児　科	藤田医師	10日(火)、19日(木)
脳神経外科	青木医師	20日(金)
産 婦 人 科	谷村医師	27日(金)
眼　　科	山田医師	11日(水)、18日(水)、25日(水)、27日(金)
	西野医師	20日(金)、30日(月)
耳　　鼻いんこう科	石川医師	24日(火)
	吉川(智)医師	20日(金)
歯　　科口腔外科	小島歯科医師	16日(月)、23日(月)
	倉部歯科医師	20日(金)、27日(金)

※不在日につきましては、代わりの医師が対応いたします。

3 受診にあたってのお願い

日頃より、地域連携室業務に多大なるご協力をいただき感謝申し上げます。時折、予約なく診療情報提供書をお持ちになって来院され、当日の受付枠がいっぱいで、後日の予約を取ってお帰り頂く場合があります。ご面倒でも、受診前に地域連携室にお電話いただき予約をお願いします。その際には診療情報提供書を事前にFAXいただきますと診療までの待ち時間の短縮にもつながりますので、ご理解とご協力を賜りたく存じます。何卒よろしくお願いいたします。

編集後記

今年のカレンダーも残すところ後一枚になりました。この時期、ドイツの伝統菓子シュトーレンを楽しみにしています。秋にドライフルーツを洋酒に漬け込む準備をしてから焼きます。クリスマスまで、毎日薄く切っていただきます（いつも、早々に食べきってしまいますが）。さて、計画的に準備とならないのが、退院支援です。もう退院ですか？の声をよくいただきます。早急な退院調整は、急性期病院としての使命ですが、住み慣れた自宅で早く生活をしていただきたいという思いで臨んでおります。そんな時、家に帰ってからサービスを調整するから大丈夫！と応えてくださった地域の皆様の力に随分とお世話になった一年でもありました。本当にありがとうございました。来年もどうぞよろしくお願いいたします。

（地域連携室　社会福祉士　山下絵理子）

当院正面イルミネーション

4 地域連携室からのお知らせ

令和5年2月より「とやまPET画像診断センター」のPET/CT装置が新しくなります。

当院は「とやまPET画像診断センター」と連携しながら、がんの診療をしております。新しいPET/CT検査の診断での精度が向上し、患者さんの治療方針に役立てることができますので、是非当院へご紹介いただきますようお願いいたします。

「地域連携室だより」の送付を希望されない場合は
下記までご連絡下さい。

富山県立中央病院
地域連携室
○代表電話　076（424）1531／内線3177
○予約専用　076（491）7160
○FAX　　076（491）7109

がん診療に関する相談支援センター
　ホームページアドレス　https://www.tch.pref.toyama.jp/
地域連携室（医療機関向け）電話076－424－1531／内線3177
　メールアドレス　chiikirenkei@pref.toyama.lg.jp
医療相談室（患者・ご家族向け）電話076－424－1531／内線9130・9307
　メールアドレス　kango@pref.toyama.lg.jp